

## ■収益・費用に関する仕訳 解説

1. (借) 売 上 200,000 (貸) 売 掛 金 200,000

商品売買について3分法を採用しており、収益の認識基準について検収基準である場合は、得意先による検収が完了した日に収益を認識する。本問では、以前に掛売上高として計上済みの商品が得意先で未検収のままであることが判明したため、売上勘定(収益)の借方に記入するとともに、売掛金勘定(資産)の貸方に記入する。

2. (借) 商 品 200,000 (貸) 前 払 金 50,000  
買 掛 金 150,000

商品売買について販売のつど売上原価勘定に振り替える方法を採用しており、商品を仕入れたときは、原価で商品勘定(資産)の借方に記入する。なお、代金について手付金分は前払金勘定(資産)に、原価と手付金との差額は買掛金勘定(負債)のそれぞれ貸方に記入する。

3. (借) 売 掛 金 250,000 (貸) 売 上 250,000  
売 上 原 価 200,000 商 品 200,000

商品売買について販売のつど売上原価勘定に振り替える方法を採用しており、商品を掛販売したときは、売価で売上勘定(収益)の貸方に記入するとともに、売掛金勘定(資産)の借方に記入する。また、原価で売上原価勘定(費用)の借方に記入するとともに、商品勘定(資産)の貸方に記入する。

4. (借) クレジット売掛金 360,000 (貸) 売 上 400,000  
支 払 手 数 料 40,000  
売 上 原 価 300,000 商 品 300,000

商品売買について販売のつど売上原価勘定に振り替える方法を採用しており、クレジット払いの条件で商品を販売したときは、売価で売上勘定(収益)の貸方に記入するとともに、信販会社への手数料を差し引いた手取額をクレジット売掛金勘定(資産)の借方に記入し、手数料を支払手数料勘定(費用)の借方に記入する。また、原価で売上原価勘定(費用)の借方に記入するとともに、商品勘定(資産)の貸方に記入する。

$$\text{支払手数料} ¥40,000 = \text{売価} ¥400,000 \times 10\%$$

5. (借) 買 掛 金 1,200,000 (貸) 当 座 預 金 1,188,000  
仕 入 12,000

買掛金を決済したときは、買掛金勘定(負債)の借方に記入する。また、商品売買について3分法を採用しているため、仕入割戻額は仕入勘定(費用)の貸方に記入し、残額については小切手を振り出しているため当座預金勘定(資産)の貸方に記入する。

6.	(借)	売	掛	金	500,000	(貸)	役	務	収	益	500,000
		役	務	原	価	270,000		仕	掛	品	200,000
							買	掛	金		70,000

商品売買業以外のサービス業などを営む場合で、サービス提供が完了したときは、契約額を役務収益勘定（収益）の貸方に記入し、収益計上よりも先行して発生していた費用は、仕掛品に計上されているため、仕掛品勘定（資産）の貸方から役務原価勘定（費用）の借方に振り替える。なお、追加で発生した外注費については、役務原価勘定（費用）の借方に記入するとともに、買掛金勘定（負債）の貸方に記入する。外注費に対する未払額を、未払金としないよう留意する。

7.	(借)	棚	卸	減	耗	損	3,000	(貸)	繰	越	商	品	6,950
		商	品	評	価	損	3,950						

商品売買について3分法を採用しており、決算にあたり、期末商品の評価をするときは、棚卸減耗損分を棚卸減耗損勘定（費用）の借方と繰越商品勘定（資産）の貸方に記入する。また、商品評価損分は商品評価損勘定（費用）の借方と繰越商品勘定（資産）の貸方に記入する。

棚卸減耗損 ¥3,000 = (帳簿数量 800 個 - 実地数量 790 個) × 帳簿価額@ ¥300

商品評価損 ¥3,950 = (帳簿価額@ ¥300 - 正味売却価額@ ¥295) × 実地数量 790 個

8.	(借)	棚	卸	減	耗	損	12,000	(貸)	商	品	12,000
----	-----	---	---	---	---	---	--------	-----	---	---	--------

商品売買について販売のつど売上原価勘定に振り替える方法を採用しており、決算にあたり、商品の評価をするときは、棚卸減耗損分を棚卸減耗損勘定（費用）の借方と商品勘定（資産）の貸方に記入する。なお、本問は帳簿価額より正味売却価額が上回っているため、商品評価損は発生しないことに留意する。

棚卸減耗損 ¥12,000 = (帳簿数量 500 個 - 実地数量 480 個) × 帳簿価額@ ¥600

9.	(借)	研	究	開	発	費	980,000	(貸)	当	座	預	金	650,000
									普	通	預	金	330,000

研究開発費とは、研究および開発に関する活動から生ずる費用である。研究開発にのみ従事している客員研究員の業務委託費および特定の研究開発にのみ使用する目的で購入した備品等は、すべて発生時に費用とするため、研究開発費勘定（費用）の借方に記入する。

10.	(借)	支	払	リ	ー	ス	料	480,000	(貸)	当	座	預	金	480,000
-----	-----	---	---	---	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

オペレーティング・リース取引は、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行う。したがって、支払ったリース料を支払リース料勘定（費用）の借方に記入する。

11.	(借)	開	業	費	700,000	(貸)	当	座	預	金	700,000
-----	-----	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

会社成立後、営業開始までに要した費用は開業費勘定（費用）の借方に記入する。

12.	(借)	売	掛	金	345,000	(貸)	売	上	345,000
-----	-----	---	---	---	---------	-----	---	---	---------

商品売買について3分法を採用しており、商品を掛輸出販売したときは、売価で売上勘定（収益）の貸

方に記入するとともに、売掛金勘定（資産）の借方に記入する。なお、外貨建取引のため、取引発生時の為替相場により円換算した額によって記入する。

$$\text{売掛金 } ¥345,000 = \text{商品 } 3,000 \text{ ドル} \times \text{取引時} @ ¥115$$

13. (借) 売 掛 金 6,000 (貸) 為 替 差 損 益 6,000

決算にあたり、外貨建債権債務は決算時の為替相場に円換算した額とする。なお、換算差額については為替差損益勘定の貸方に記入する。

$$\text{為替差損益 } ¥6,000 \text{ (益)} = \text{外貨建売掛金 } 3,000 \text{ ドル} \times (\text{決算時} @ ¥117 - \text{取引時} @ ¥115)$$

14. (借) 為 替 差 損 益 8,000 (貸) 買 掛 金 8,000

取引発生後に為替予約を契約したときは、買掛金の発生時（商品輸入時）における直物為替相場と為替予約時における先物為替相場の差額を、当期の損益として為替差損益勘定の借方に記入するとともに、買掛金勘定（負債）の貸方に記入する。

$$\text{為替差損益 } ¥8,000 \text{ (損)} = \text{外貨建買掛金 } 4,000 \text{ ドル} \times (9/1 \text{ 先物} @ ¥112 - 8/1 \text{ 直物} @ ¥110)$$

15. (借) 売 掛 金 660,000 (貸) 売 上 660,000

製品を輸出販売したときは、取引発生時の為替相場により円換算するが、本問は代金の一部につき取引以前に為替予約を付しているため、売掛金の決済額が為替予約時における先物為替相場で確定する。したがって、為替予約分については為替予約時における先物為替相場で円換算した額をもって、売掛金勘定（資産）の借方に記入するとともに、売上勘定（収益）の貸方に記入する。

$$(1) \text{ 売掛金(為替予約分)} ¥216,000 = \text{外貨建売掛金 } 2,000 \text{ ドル} \times \text{為替予約時の先物為替相場} @ ¥108$$

$$(2) \text{ 売掛金(為替予約分以外)} ¥444,000 = \text{外貨建売掛金 } 4,000 \text{ ドル} \times \text{取引発生時の為替相場} @ ¥111$$

$$(3) \text{ 売掛金総額 } ¥660,000 = \text{前記(1)} ¥216,000 + \text{前記(2)} ¥444,000$$